

城陽市障がい者自立支援協議会

第 19 回 サービス調整検討部会報告書

平成 27 年 8 月 21 日

報告者 部会長 障害者生活支援センターはーもにい 小関 徹史

標記について下記のとおり報告します。

日 時	平成 27 年 7 月 10 日
場 所	城陽市福祉センター
出席者	城陽市障害福祉課、城陽市社会福祉協議会訪問介護センター、ものづくりスペースみんななかま、指定居宅介護事業所チャレンジ、ヘルパーステーションそらいろ、城陽作業所、障害者生活サポートひこうき雲、南京都病院（療育指導室）、相談支援事業所TOMO、相談支援事業所リーフ、障害者支援施設あんびしゃ、ワークショップ野の花、ホームヘルプステーションゆう、身体障害者デイサービスセンターすいんぐ、知的障害者デイサービスセンターあつぷ、障害者生活支援センターはーもにい
検討課題	今後のサービス調整検討部会の方向性について

【議事録】

1 アンケート結果より

今後の部会の進め方について、アンケートをとり意見を出してもらった。

- | | | |
|------------------|-----|--------|
| ① 今まで通り全体で行う | 6 件 | |
| ② 事業所を 2 つに分けて行う | 6 件 | |
| ③ 部会自体を取りやめる | 0 件 | |
| ④ それ以外の案 | 3 件 | ※重複回答有 |

2 意見交換

- ・活発に意見交換するために、事業所をランダムに分ける方が良い
- ・地域の情報を聞く場、目的は連携を深める為。通所、入所の話を聞くことが無いので有意義。以前入所の余暇活動の課題があがり、土日の自己負担のガイヘルを考え始めたきっかけとなった。
- ・ランダムに分け、支援が無い所を出し、制度外の制度を市の問題として、市の制度としていく。
- ・1 事業所の機能も増えている。2 つに分け、テーマを分けて話し合い、全大会のようにして見直しをつける。
- ・多人数は発言し辛い。事例検討は無しにはせず、シリーズ化してその後の全体像を見ていく。
- ・相談支援事業所を通じてサービス調整をしているので、事業所間ではどんな方を対象にしているかわからない。情報共有の為にランダムに分けた方が良い。
- ・発言し辛い。相談、通所、居宅の小さい会に分けて、全体にあげるのはいかがでしょうか？

- ・色々なサービスがあるという事を知る貴重な場。事例検討が報告のような形になっているが、本当に困っていることはあると思う。聞きたい事が聞ける場になれば良い。

4 まとめ

皆さんから色々な意見が出て、当日はアンケート結果と違った意見を出しておられた方もおられ、グループは固まっていないが、2つに分けて開催した方が話をしやすいといった意見の方が、やや上回ったような形になった。

部会の開催方法の他に、それぞれの事業所の事を知った方が課題が出やすいといった意見も何名かから出ており、次回の開催までにパンフレット等を送ってもらい、当日はそれを見ながら一言ずつでも説明を付け加え、事業所の紹介をしていこうという話になる。

それに加えて、課題についての絞り込み、意見交換を行う。

以上